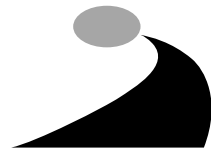


秋田県立大学 図書館だより



No. 4 2002.3

》》》》》》》》》 目 次 《《《《《《《《《

知の集積庫としての図書館 生物資源科学部長 室伏 旭	1
一冊の本をめぐる 図書・情報委員会図書運営委員 松山 敬左	2
図書館利用案内：短大部の資料の利用	4
資料探索法：統計情報を調べる	5
平成13年度受入資料報告	7
図書館からのお知らせ	8



知の集積庫としての図書館

生物資源科学部長 室伏 旭

子供のときから本を読むのが好きでしたが、戦後のことで世の中がまだ貧しく、図書館というものがあるということは多分知らなかったと思います。中学、高校と長ずるに従って、図書室によく行き、いろいろな本を読みふけたのですが、図書室、あるいは図書館というものは、単に本を集めておいて読みたいという人に便宜を図るというものと漠然と考えていました。しかし、図書館というものの意義はそれだけではないということがだんだんとわかってきました。

何年か前に、ウンベルト・エーコという人の書いた「薔薇の名前」という小説がベストセラーになったことがあります。上下2巻で出版され

た長大かつ難解な作品でしたが、非常に面白く一気に読了しました。中世の修道院を舞台とした物語ですが、そのなかで図書館が非常に重要な役割を演じております。その後、この小説は映画化されそれも見ましたが、中世修道院の図書館というものがどういうものであるか映像として示され、これも非常に興味あるものでした。そこで示された図書館は、当時のヨーロッパならびにオリエント文化の集積庫であった、という設定になっていました。その修道院の権威の高さが、当時の世界で最も多くの図書を蔵しているということによって示されていました。すなわち、当時の神学を中心としたあらゆる文化は、図書という形で集められ管理されていたと

ということになります。それらの図書をどのように管理・利用するだけでなく、特定の図書を人の目に触れないようにするか、などが非常に重要な問題として扱われていました。（「薔薇の名前」においても、アリストテレスのある著作が人の目に触れるということを禁止する、ということが主題になっております。）洋の東西を問わず、宗教的あるいは世俗的権力による禁書というものが多く存在したということは周知のことです。

現在は、少なくともわれわれの周辺には禁書というものはありません。知の集積庫である図書館は、常に外に向かって開かれております。冊子の形での図書利用のほか、いわゆる電子化された図書館の利用は驚くべき速度で進行しております。われわれは、自由に図書館を利用することができる現代に感謝すべきでありましょう。

本学における図書館の蔵書数は、開学してまだ3年しか経っていないということもあり、かならずしも十分であるとはいえないだろうと思います。しかし、毎年相当数の図書が購入され充実したものとなりつつあります。新たに購入する図書をどのように選択するか、購入された図書をどのように管理・維持するかということは、図書館関係者の多大の努力によって行われているということ、われわれは感謝の念をもって認識すべきでしょう。

司馬遼太郎氏の著書の中で、漢籍の蒐集についてのことを読んだ記憶があります。それによると、江戸時代の諸藩は、苦しい財政を何とかやりくりして、中国からのさまざまな漢籍を購

入したということです。それら漢籍は、入手されたのち大切に保管・維持されてきました。それらの幾つかは、現在〇〇文庫というような形で残っております。それらが日本の知的レベルの向上に非常に役立ったことは想像に難くありません。何年前か、中国では名前は知られているがすでに散佚している書物が日本に保管されていることが判明し、当時訪日していた中国の学者が驚愕・驚喜したということです（「韓非子」という書物についての注釈書の一つと聞きました。）宋代の有名な詩人である歐陽脩の詩に、“「書経百卷」は中国では失われているが海を渡って日本に運ばれたものは残っているということである、是非見たいものだ”、という一節があります。残念ながら「書経百卷」は日本において見いだされておきませんが、上記のような渡来した貴重な文化遺産が多く保管されております。このような書物という文化を大切に日本の伝統が長く維持されることを願うものです。

かつて、ある大学の学長が大学の図書館について語ったのを聞いたことがあります。その中で、“図書館は、大学のなかでもっとも静かなところである。”という部分が非常に印象に残っております。これは、単に騒がしいことからかけ離れた存在であるべきだ、ということだけでなく、知的に張りつめた緊張感が漂う場所である、ということが込められているように感じました。最近、図書館の中で騒いでいるということから発した忌まわしい事件の報道に接し、改めて“図書館と静寂”という文言を思い出しました。



一冊の本をめぐる

図書・情報委員会図書運営委員 松山敬左

(システム科学技術学部経営システム工学科教授)

私は少年時代に愛読したファラデーの「ロウソクの科学」から大きな影響を受けた。結果的には自然科学の研究者になることはなかったけれども、「ロウソクの科学」を愛読したことが、今でも私の自然科学への淡い憧憬となって、通

奏低音のように自分の研究者としての生活を規定しているように思われる。

今の時代に、1つの本を読んだ結果が、それを読んだ人の人生を決定するということがあるであろうか。どうもそういうことは現代では起

こりそうもない。

前回の「図書館だより」で神山学部長先生は、先生の研究者としての人生に、大学図書館で読んだ本が重要な意味を持ったということを書いておられた。それを拝読して、神山先生が送られた学生時代が私のそれとほとんど同じであるということを実感した。

私の学生時代には、1つの本を読んで、それ以後の人生や人生観が変わってしまうということは、それほど珍しいことではなかった。極端なことを言えば、当時のほとんどの大学生は自分の人生を決定してしまうような読書体験を持っていたように思われる。

私は昭和30年代に学生時代を送った。そのころの学生にとって、本の読み方は3つありあるように思われていた。それは

- 1 楽しみ（娯楽）のための読書
- 2 勉強や調べものための読書
- 3 人格を高め教養をつけるための読書

である。

今の若い人にはとうてい信じられないことかもしれないが、当時私たちは、勉強のための読書に疲れると、もっと軽い本を気晴らしのために読んだものである。つまり当時は読書も、娯楽や気晴らしの対象であった。

3と分類したものは、例えばカントだったりヘーゲルだったりするのだが、それは時間の余裕があるときに読むべきものと考えられていた。ただ私の学生時代ではこの種の本は段々と読まなくなる傾向にあった。

私の学生時代より20年以上前の学生は四六時中この種の本を濫読していたとも聞く。例えば終戦直後のあの苦しい時代でも、哲学書を惨めな空腹の状態で読んだという話はよく聞いた。いうまでもなくこのような読書は大学図書館から借り出した本で行われていたようだ。当時の普通の学生は、現代の学生と比べると、かなり貧しくて、本を買うなどという余裕はなかったのである。

当時の大学図書館は、この3つの目的を達成できるように、本が揃えられていたが、どうも私たちの時代では、娯楽のためや教養を深めるために、図書館の本を利用するということは少なくなりつつあった。そのような読書は、なんとなく自分の生活費から工面して出費するべきであるという考えが支配的になりつつあった。

現代では、勉学に用いるような本でさえも、学生は自分で購入する。大学図書館の役割も大分変わってきたのである。

「ロウソクの科学」を読んだのは私が中学生の頃、つまり昭和20年代後半のことである。学校の図書館で借りて読んだ本であるが、以後私が最も敬愛する科学者がファラデーということになる。

ファラデーに対する私の想いは、少々独り合点なもので、私のモーツアルトに対する想いと似ている。例えば、モーツアルトが後5年生きていればと思うのと同じように、ファラデーがせめて、中等教育を受けていたらと想うのである。貧しい鍛冶屋の息子であった彼は、例えば代数学でも、式と式の乗算はできなかったといわれる。彼が人並みの教育を受けていたら、マックスウェルと同じものを定式化したかも知れない。少なくとも彼にはマックスウェルと同じ結論が見えたが、彼にはそれを表現する術を持ち合わせてなかっただけだと考えたりする。そうするとなぜか甘い感傷のようなものが襲ってくる。

英国人の友人に私がファラデーを尊敬しているといったとき、彼は実に変な顔をした。「電磁気学を体系付けたのはむしろマックスウェルだ」というのである。それを聞いて散文的な気分になったことを思い出す。

この大学に赴任する以前に在籍していた大学のことである。何時だったか何人かの若い（そのころ私も若かった）教師が集まって、ささやかな忘年会を開いたときのことである。集まったのは、物理学、化学、数学を専門にする人たちとそれから私であった。なぜか話が「ロウソクの科学」に及んだとき、全員がこの本を愛読していることを知った。ある先生がそのとき言った言葉を思い出す。

「ロウソクの科学」を読んで自然科学者になろうと決心するような人はもう出ないかもしれない。

なんとも表現できない沈黙が我々を襲った。多分事態は以後そのように変わってきたであろう。

図書館利用案内 — 短大部の資料の利用

秋田県立大学のOPACには、大潟村の短期大学部図書館で所蔵している資料も登録されていることをご存じですか？これらの資料も短大との相互貸借により、貸出は可能です。OPACコーナーにある「予約申込書」に記入して、カウンターへ申し込んでください。秋田・本荘キャンパス図書館に届くまでに、最低でも1～2日かかりますので、余裕を持って申し込んで下さい。

所蔵状況		書誌情報				
項番	配架場所	資料番号	請求番号	巻次	資料状態	返却予定日
1	短大開架	019255900	913.6:KA:3003	--	書架	--

<OPAC検索 一口メモ>

2項目複合検索

書名

配架場所

検索項目に「配架場所」を選択し、「短大」か「秋田」か「本荘」と入力すると、そのキャンパスの資料のみが検索されます。

短期大学部附属図書・情報センター蔵書のOPAC登録状況について

短期大学部附属図書・情報センターでは、県立農業短期大学として開学した当初から収集した約4万5千冊の蔵書を有し、そのうち約1万5千冊の図書をOPACに登録しております（平成14年1月31日現在）。登録された図書のほとんどは閲覧室に配架されており（検索すると短大開架と表示されます）、どなたでも自由に閲覧することができるほか、学外の方への貸出しも行っています。農業や自然科学に関する専門書を中心とした蔵書構成ですが、小説や各種教養書の収集にも努めていますので、どうぞご利用ください。

秋田県立大学短期大学部附属図書・情報センター

(URL:<http://www.agri.akita-pu.ac.jp/biblio/tosyo-top.html>)

資料検索法 — 統計情報を調べる

秋田県の気象データ・出生率・国別GDPなどのデータを調べるとき、あなたはどのようにしますか？そのデータが何の資料に載っているかがわからないときの調査の方法と、役立つツールをご紹介します。

方法1：総合統計書を調べる

重要で基本的な統計をまとめたものです。

基本的なデータは、総合統計書を調べることで解決できます。さらに詳しいデータが必要なときは、「出典元」を参照しましょう。表の下に「資料：○○○」とあるのが、出典元です。（下記の例参照）

<主な総合統計書>

『日本統計年鑑』 総務省統計局編

わが国のあらゆる分野の重要で基本的な統計資料を総合集録した、包括的な統計年鑑です。主として官庁統計を源資料として前年を最終集録年次としています。

ダイジェスト版として『日本の統計』があります。

●Webアドレス <http://www.stat.go.jp/data/nenkan/>

『国際連合世界統計年鑑』 国際連合統計局編

世界各国のさまざまな分野の統計を要約的に収載した年刊の統計書です。国連から発行されている統計年鑑『Statistical Yearbook』の和訳です。

ダイジェスト版として『世界の統計』があります。

●Webアドレス <http://www.stat.go.jp/data/sekai/>

『秋田県勢要覧』 秋田県企画振興部統計課編

秋田県・県内市町村・都道府県別の基本的な統計を収録した統計年鑑です。

(例) 15 労働力人口

(秋田県勢要覧より抜粋)

(1) 労働力人口 (各年10月1日)

(単位：人)

年次	総人口	15歳以上人口	労働力人口			非労働力人口	不詳	就業率 (%)
			総数	就業者	完全失業者			
昭45	1 241 376	938 090	643 494	636 013	7 481	294 568	28	67.8
50	1 232 481	958 631	628 081	616 870	11 211	330 550	—	64.3
55	1 256 745	993 387	639 586	624 475	15 111	352 610	1 191	62.9
60	1 254 032	1 003 559	639 718	619 086	20 632	362 772	1 069	61.7
平2	1 227 478	1 007 413	631 686	614 522	17 164	374 896	831	61.0
7	1 213 667	1 024 665	629 941	608 735	21 206	393 395	1 329	59.4

資料：「国勢調査」 ← 出典元

方法 2：統計索引を使う

統計表の書誌情報を収録し、さらにキーワードや編集機関別の索引から探し出せるよう編集したものです。

求めるデータがどの資料に載っているかを知ることが出来ます。統計データそのものは収録されていませんので、資料がわかったら現物を当たりました。

<主な統計索引>

『統計情報インデックス』 総務省統計局編

中央省庁、政府関係機関、一部民間機関によって作成されている統計刊行物について、それらの名称、統計表の表題などを整理、編成したものです。キーワード索引、書誌情報、表題一覧、編集機関別書名索引の4部構成です。

●Webアドレス <http://www.stat.go.jp/toukeiindex99/default.asp>

『統計調査総覧』 総務省統計局編

調査統計の目的、沿革、調査方法等などが収録されています。調査統計が分野ごとにまとめられており、その中でさらに調査機関別に分類されているので、それによって情報を得ることができます。

「統計情報検索システム」 <http://www.sr3.t.u-tokyo.ac.jp/~hara/statsrch.html>

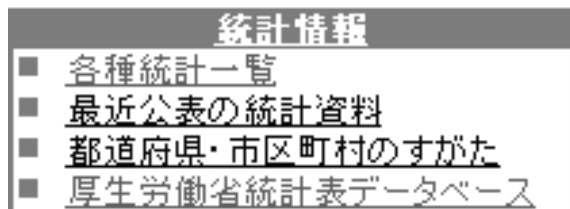
東京大学大学院で作成された上記の2つの資料を組み合わせた検索システムです。

方法 3：インターネットを使う

官公庁などから公表されている統計データは、ホームページにも多数公開されています。調査機関のホームページからたどっていくか、「google」等の検索エンジンを使って調査することも可能です。

(例) 厚生労働省ホームページ

<http://www.mhlw.go.jp/>



官公庁リンク

http://www.kantei.go.jp/jp/link/server_i.html

こちらのページから官公庁のホームページにアクセスできます。

平成13年度受入資料報告

受入冊数（14年3月13日現在）

	和 図 書	洋 図 書	視聴覚資料等
秋田キャンパス	1,415冊	202冊	96点
本荘キャンパス	2,661冊	872冊	189点
合 計	4,076冊	1,074冊	285点

学生図書委員会報告

講義とは直接関係無くとも、教養・娯楽のための本を図書館に入れてほしい・・・という学生の要望に応え、13年度から学生図書委員会制度が始まりました。各キャンパスの委員から、リクエストの収集や選定に関する報告をしていただきます。

● 本荘

今年度から学生図書委員会が発足しましたが、図書委員会が存在していることを知らない方も多いかと思います。第1期の今年度は、活動として学生選書制度による図書リクエストを募集しました。学生選書制度は、学生の希望が反映された図書の選書を目的としています。今回、一ヶ月弱という慌ただしい中でリクエストを募集することになりましたが、短期間にもかかわらずリクエストが集まったことは、とてもうれしいことでした。

今年度は発足したばかりの委員会です、手探り状態の活動でした。色々な問題点や反省点があり、短い期間の活動でもありましたが、来年度以降の活動に繋がることを希望しています。

本荘キャンパス学生図書委員会

● 秋田

私達の秋田キャンパス学生図書委員会では6月末から活動を始め、何度か検討を重ねて、リクエストの収集方法として電子メールを利用することにしました。12月上旬に学部の学生全員に電子メールでリクエストを募った結果、6件（図書-28冊、新聞-1紙）のリクエストがありました。集まったリクエストを学生図書委員会で検討し、4件（図書-19冊）のリクエストを採用し、さらに各委員の要望・意見も取り入れ、今年度は合計69冊の図書を購入することになりました。

今年度は集まったリクエスト件数が少なかったため、来年度はリクエストの収集方法を改善し、より多くのリクエストが集まるよう活動していきたいと考えています。

秋田キャンパス学生図書委員会

14年度以降も皆様のリクエストお待ちしております。

- 講義関連のリクエスト → 図書館内リクエストボックスへ（随時受付中）
- 教養関係のリクエスト → 学生図書委員会へ

図書館からのお知らせ

図書館利用規則の改定

大学院の学生の貸出規則について

冊数：10冊 期間：2週間（逐次刊行物は3日、逐次刊行物最新号は1日）

休館日について

	旧	新
月末休館日(資料整理日)	毎月末日	偶数月の月末日
年 末 年 始	12/29～1/4	12/29～1/3

休日夜間無人開館について

14年1月23日からスタートしました。本学の教職員・学生が利用可能です。

開 館 時 間
月～金 閉館時間～22:00
土・日・祝日 9:00～19:00 (休業期間中は ～17:00)

詳しい使い方は、各図書館に置いてあるマニュアルをご覧ください。か、図書館職員へお問い合わせください。

OUP (Oxford University Press) オンラインジャーナル

平成14年度も継続して利用が可能です。

<http://www3.oup.co.uk/jnls/online> へアクセスしてください。

利用対象者は、本学の教職員および学生です。IPアドレスによる利用者管理を行っていますので、学内の端末から利用してください。

秋田県立大学 図書館だより No.4 2002年3月発行

秋田県立大学 図書・情報センター (URL:<http://www.akita-pu.ac.jp/library/lib.html>)

●秋田キャンパス

〒010-0195

秋田市下新城野字街道端西 241-7

TEL018-872-1561 FAX018-872-1674

E-mail:a_library@akita-pu.ac.jp

●本荘キャンパス

〒015-0055

本荘市土谷字海老ノ口 84-4

TEL0184-27-2049 FAX0184-27-2185

E-mail:h_library@akita-pu.ac.jp

* 御意見・御要望等をお寄せください。